

区切りとけじめで終わらせるな！ JR福知山線脱線事故で旧経営陣らに処分

7月23日、JR西日本は、JR福知山線脱線・転覆事故に対して、山崎社長を含む歴代社長3人と事故当時の経営陣ら、計29人に報酬返上などの処分を科すと発表した。真鍋副社長は、「事故を組織的、構造的課題と認識しており経営を担ってきた者に重い責任がある」とコメントしている。

ところで、この様な処分だけであるJR福知山線脱線・転覆事故が「整理」されたのでは、事故の教訓など何もないに等しい。事故の原因は、職場の環境にこそその核心がある。実際、職場における労務管理などは異常な状況に変わりはない。JR西日本の姿勢は、処分によって「区切りとけじめ」をつけ、事故の幕引きを狙っていると思えない。何よりも、当時の最高責任者であった井出元相談役には、何らの処分も追求されていない。

7月27日に行われた神戸地検による遺族への説明会で、遺族は山崎社長だけの起訴に納得しないと、不満の意見が多く出され、遺族のうち約40人が井出元相談役ら歴代3社長の不起訴を不服として、神戸検察審査会に審査を申し立てる方針だ。

私たちは、「区切りとけじめ」による事故の幕引きを断じて許さず、真の原因究明と安全の確立のために闘う！



遺族は社長だけの起訴に納得せず！